



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月12日

上場取引所 東

上場会社名 新家工業株式会社

コード番号 7305 URL <http://www.arava-kk.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 澤 保

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長

(氏名) 上村 恵一

TEL 06-6253-0221

四半期報告書提出予定日 平成25年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	17,207	4.1	322	137.5	337	233.1	207	—
25年3月期第2四半期	16,533	△11.3	135	△49.4	101	△64.1	△201	—

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 866百万円 (—%) 25年3月期第2四半期 △382百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	3.73	—
25年3月期第2四半期	△3.56	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	38,884	21,016	51.7
25年3月期	39,128	20,445	49.7

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 20,121百万円 25年3月期 19,459百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	3.00	3.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	37,500	8.4	700	94.0	650	83.7	400	—	7.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期2Q	60,453,268 株	25年3月期	60,453,268 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

26年3月期2Q	4,880,962 株	25年3月期	4,879,284 株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	55,573,298 株	25年3月期2Q	56,427,181 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府、日銀のデフレ脱却に向けた経済政策や金融政策、いわゆるアベノミクスを好感して円高是正や株価の上昇が進み、輸出関連を中心に企業収益の改善や個人消費の一部に持ち直しの動きなど、景気回復の兆しが見られました。しかしながら、中国など新興国の経済減速懸念、欧州の債務問題など海外景気の下振れリスクが存在し、依然として先行きは不透明な状況で推移しております。

このような情勢のもと鋼管業界におきましては、企業の景況感が改善傾向を示しているものの实体经济への波及は十分でなく、企業の設備投資向けの需要は力強さに欠け、震災復興の需要も加速した動きは見られませんでした。一方、建材関連の需要については、消費税率アップ前の住宅関連が堅調で久しぶりに回復傾向となりました。

普通鋼製品においては、自動車関連では小型車や軽自動車向けの需要が、流通関連では各種商業施設の出店に伴う需要が好調でした。円安進行と製鋼原材料等の価格上昇に伴う原材料価格の値上がりを受けて、鋼管等の各メーカーは製品価格の是正に取り組み、全体的に需給バランスが弱含みのなかで、ようやく夏場に入り需要量も増加傾向となり価格是正が見られました。

ステンレス製品につきましては、食品飲料、製薬、医療など一部の業種の需要は比較的安定しており、建築部材や鉄道車両関連にもやや動きが出てきました。しかし、液晶や半導体の設備関連の需要は引き続き不振で、全体的には低調に推移しました。そのような状況にあって、期初において原材料メーカーの値上げをきっかけに価格是正を行いました。需要回復が進まないなかで価格維持が難しい状況が続きました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は17,207百万円（前年同期比4.1%増）、営業利益322百万円（前年同期比137.5%増）、経常利益337百万円（前年同期比233.1%増）となり、四半期純利益は207百万円（前年同期は四半期純損失201百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は38,884百万円となり、前連結会計年度末に比べ243百万円減少しました。流動資産は24,414百万円となり1,745百万円の減少となりました。これは主に、受取手形及び売掛金の減少1,739百万円、有価証券の減少249百万円であります。固定資産は14,470百万円となり1,501百万円の増加となりました。これは主に、投資有価証券の増加892百万円であります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は17,867百万円となり、前連結会計年度末に比べ815百万円減少しました。流動負債は14,970百万円となり1,038百万円の減少となりました。これは主に、支払手形及び買掛金の減少1,006百万円であります。固定負債は2,897百万円となり222百万円の増加となりました。これは主に、その他（繰延税金負債）の増加291百万円であります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産は21,016百万円となり、前連結会計年度末に比べ571百万円増加しました。これは主に、その他有価証券評価差額金の増加514百万円であります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、7,254百万円となり、前連結会計年度末より412百万円減少しました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は685百万円（前年同四半期は191百万円の資金の減少）となりました。これは主に、売上債権の増減額が2,683百万円の資金増加から1,767百万円の資金増加になったことや、たな卸資産の増減額が158百万円の資金増加から473百万円の資金減少になったものの、税金等調整前四半期純損失253百万円から税金等調整前四半期純利益328百万円になったことや、仕入債務の増減額が2,556百万円の資金減少から1,011百万円の資金減少になったことなどによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は787百万円（前年同四半期は273百万円の資金の減少）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が435百万円増加したことなどによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の減少は367百万円（前年同四半期は158百万円の資金の減少）となりました。これは主に、短期借入金の純増減額が98百万円の資金増加から165百万円の資金減少になったことなどによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、引き続き政府の経済政策等により、景気は回復基調で推移していくものと思われませんが、来春の消費税増税の影響や海外経済の動向など、景気の先行きには不透明感が残るものと予想しております。

鋼管業界におきましては、公共投資の増加や消費税増税前の駆け込み需要、遅れている震災復興需要の進展などにより、鋼管製品等の販売は増加するものと期待されます。

当社グループでは、引き続き提案型営業の推進と固有の製品開発に重点を置き、グループ企業間の連携を一層強化して、引き続き効率的な生産・販売活動に注力してまいります。

通期の業績予想につきましては、現時点では平成25年5月10日に公表しました業績予想数値と変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,208	5,945
受取手形及び売掛金	13,224	11,484
有価証券	1,557	1,308
商品及び製品	3,862	3,928
仕掛品	223	209
原材料及び貯蔵品	689	1,125
その他	509	510
貸倒引当金	△115	△99
流動資産合計	26,159	24,414
固定資産		
有形固定資産		
土地	4,292	4,308
その他(純額)	3,058	3,608
有形固定資産合計	7,351	7,917
無形固定資産		
のれん	—	65
その他	89	86
無形固定資産合計	89	152
投資その他の資産		
投資有価証券	5,350	6,242
その他	178	159
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	5,528	6,401
固定資産合計	12,968	14,470
資産合計	39,128	38,884

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,557	8,551
短期借入金	5,058	4,921
未払法人税等	49	46
賞与引当金	297	320
その他	1,045	1,130
流動負債合計	16,008	14,970
固定負債		
退職給付引当金	1,571	1,572
役員退職慰労引当金	33	35
環境対策引当金	30	30
資産除去債務	6	6
その他	1,033	1,252
固定負債合計	2,674	2,897
負債合計	18,683	17,867
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,940	3,940
資本剰余金	4,155	4,155
利益剰余金	11,121	11,162
自己株式	△717	△717
株主資本合計	18,500	18,540
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,382	1,897
繰延ヘッジ損益	1	△0
為替換算調整勘定	△424	△315
その他の包括利益累計額合計	959	1,581
少数株主持分	985	894
純資産合計	20,445	21,016
負債純資産合計	39,128	38,884

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	16,533	17,207
売上原価	14,419	14,508
売上総利益	2,114	2,698
販売費及び一般管理費	1,978	2,376
営業利益	135	322
営業外収益		
受取利息	5	14
受取配当金	56	70
仕入割引	8	9
その他	20	26
営業外収益合計	91	121
営業外費用		
支払利息	21	21
売上割引	7	8
退職給付会計基準変更時差異の処理額	66	66
その他	30	9
営業外費用合計	126	105
経常利益	101	337
特別利益		
固定資産売却益	136	18
特別利益合計	136	18
特別損失		
固定資産除却損	6	7
減損損失	187	—
投資有価証券評価損	297	—
投資有価証券売却損	—	20
特別損失合計	491	28
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△253	328
法人税、住民税及び事業税	10	37
法人税等調整額	△24	78
法人税等合計	△14	116
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△238	212
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△37	4
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△201	207

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△238	212
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△146	515
繰延ヘッジ損益	△0	△1
為替換算調整勘定	3	140
その他の包括利益合計	△143	653
四半期包括利益	△382	866
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△345	850
少数株主に係る四半期包括利益	△36	15

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△253	328
減価償却費	228	232
固定資産除却損	6	6
固定資産売却損益(△は益)	△136	△18
減損損失	187	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△323	△16
退職給付引当金の増減額(△は減少)	35	△1
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△331	2
受取利息及び受取配当金	△62	△85
支払利息	21	21
投資有価証券売却損益(△は益)	—	20
投資有価証券評価損益(△は益)	297	—
売上債権の増減額(△は増加)	2,683	1,767
たな卸資産の増減額(△は増加)	158	△473
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,556	△1,011
その他	△173	△100
小計	△217	671
利息及び配当金の受取額	63	79
利息の支払額	△21	△21
法人税等の支払額	△25	△45
法人税等の還付額	9	0
営業活動によるキャッシュ・フロー	△191	685
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	—	100
定期預金の預入による支出	△100	—
投資有価証券の取得による支出	△3	△474
投資有価証券の売却による収入	—	70
投資有価証券の償還による収入	—	300
関係会社株式の取得による支出	—	△193
関係会社株式の売却による収入	—	0
有形固定資産の取得による支出	△176	△611
有形固定資産の売却による収入	0	37
無形固定資産の取得による支出	—	△1
貸付けによる支出	△30	△51
貸付金の回収による収入	36	36
投資活動によるキャッシュ・フロー	△273	△787
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	98	△165
リース債務の返済による支出	△19	△35
配当金の支払額	△169	△166
自己株式の取得による支出	△68	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△158	△367
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	57
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△624	△412
現金及び現金同等物の期首残高	7,624	7,666
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,000	7,254

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	鋼管関連	自転車 関連	不動産等 賃貸	計				
売上高								
外部顧客への売上高	15,658	642	184	16,484	48	16,533	—	16,533
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	21	21	—	21	△21	—
計	15,658	642	205	16,506	48	16,555	△21	16,533
セグメント利益	△52	5	172	126	△6	120	15	135

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、機械設備、福祉機器の製造販売であります。

2. セグメント利益の調整額はすべて棚卸資産の調整によるものであります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「鋼管関連」セグメントにおいて、連結子会社が所有する一部の事業所において、営業活動による損益が継続して損失となり、将来の回収可能性を勘案した結果、未経過リース料総額を固定資産(リース資産)の帳簿価額とみなし、回収可能価額をゼロとして全額減額し、減損損失を計上しました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては187百万円であります。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	鋼管関連	自転車 関連	不動産等 賃貸	計				
売上高								
外部顧客への売上高	16,255	729	191	17,176	30	17,207	—	17,207
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	21	21	—	21	△21	—
計	16,255	729	212	17,198	30	17,228	△21	17,207
セグメント利益	232	△23	181	390	△17	372	△50	322

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、機械設備、福祉機器の製造販売であります。

2. セグメント利益の調整額はすべて棚卸資産の調整によるものであります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「自転車関連」セグメントにおいて、P.T.パブリック アラヤ インドネシアの株式を追加取得したことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの発生額は65百万円であります。